

1 山形県の教育

- 目指す教育
- 目指す教師像
- 特色ある教育



学校、児童・生徒、教員

校種	学校数	児童・生徒数	教員数
小学校	2 2 1	4 4, 1 2 7	3, 7 5 4
中学校	9 5	2 4, 6 3 9	2, 1 4 5
義務教育学校	3	1, 1 3 8	1 1 5
特別支援学校	1 9	1, 1 9 7	8 0 6
高等学校	4 4	1 5, 6 9 8	1, 7 3 3
計	3 8 4	8 9, 3 0 9	8, 6 4 7



令和7年5月1日現在(国立・公立)

学校には、国立を含む。教員には、養護教諭、栄養教諭、講師等を含む。

山形県の教育

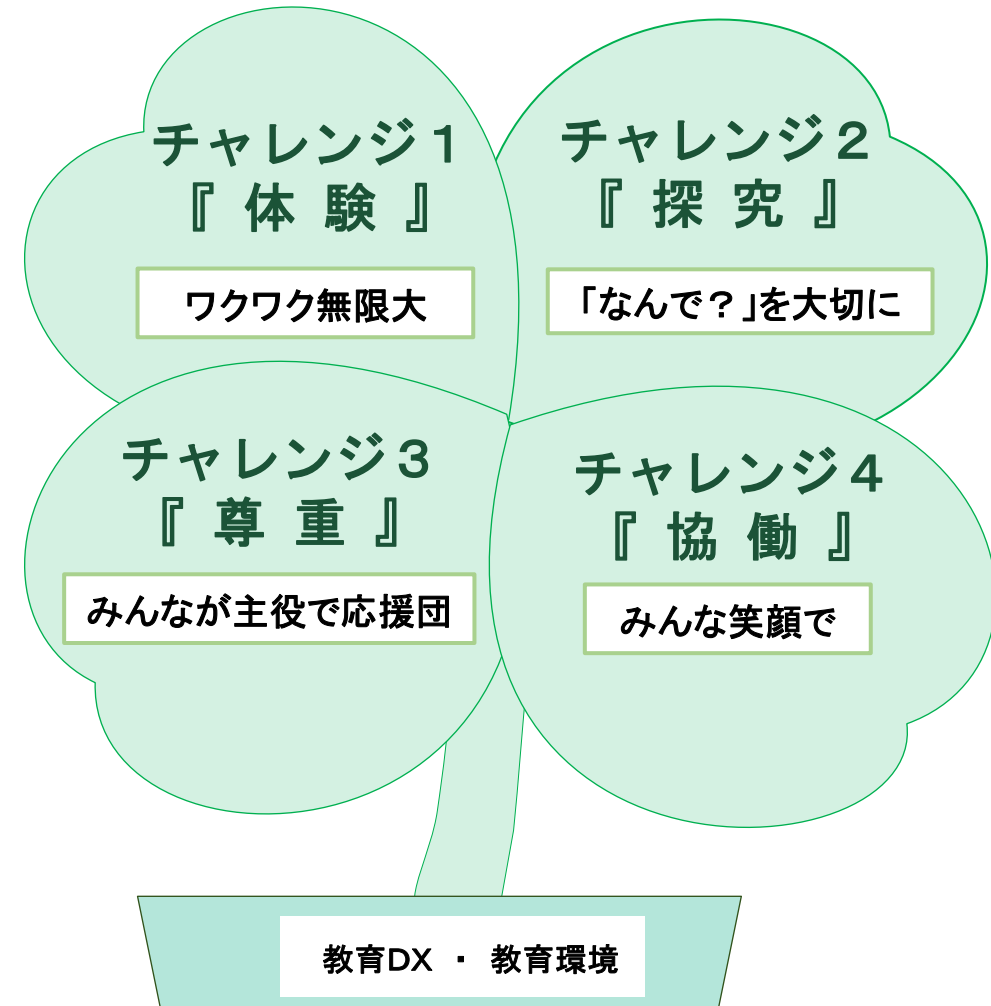
第7次山形県教育振興計画
(令和7年度～概ね10年間 方針以下は5年間)

「ウェルビーイングを目指し、
多様性あふれる持続可能な
社会の実現を担う山形の人づくり」

【ウェルビーイングを目指すために】

個人の幸せだけでなく、社会が幸せを感じられるために、県民みんなが自分の力を活かしながら、前向きに取り組んでいることが重要。

＜県民みんなでチャレンジ＞



特色ある教育

○教育やまがた「さんさん」プラン

少人数学級のメリットを生かしたきめ細やかな指導の充実により、個の能力を最大限に伸ばし、「わかる授業」「いじめや不登校のない楽しい学校」を目指す

- ・ 小学校 1 8 人～3 3 人の少人数学級編制を実施
- ・ 中学校 2 1 人～3 3 人の少人数学級編制を実施
- ・ 小中の特別支援学級 6 人以下の少人数学級編制を実施



資質・能力の育成

特色ある取り組み

「新採教員育成・支援事業リーフレット」より



(1) 大卒新採教員等が教科担任(兼)学級副担任となる場合

大卒新採教員等が教科担任(兼)学級副担任となる学校には、教員が1人多く配置されます。

学級担任

教科担任(兼)
学級副担任

(大卒新採教員)

- 大卒新採教員等は担任を持たず、教科担任として、週17コマ程度、複数のクラスで特定の教科の授業を行い、授業力を身につけます。
- 学級(学年)副担任として、先輩教員のそばで学級経営や保護者対応等を学び、担任力を身につけます。(p. 4参照)

【教科担任(兼)学級副担任の学校生活(例)】

出勤	朝の会	1校時 空	2校時 理科 5の1	中休み	3校時 理科 5の3	4校時 理科 5の3	給食	昼休み	清掃	5校時 空	6校時 理科 5の2	帰りの会	放課後	退勤
		1校時 空	2校時 理科 5の1		3校時 理科 5の3	4校時 理科 5の3	給食	昼休み	清掃	5校時 空	6校時 理科 5の2	帰りの会	放課後	

先輩教員の学級経営を見ることで、学級担任として活かしたいことを学ぶことができます。



実践を振り返りながら同じ授業を繰り返すことができるので、授業力の向上につながります。

ワークライフバランスが整うので、笑顔で子どもたちと向き合えるようになります。



(週持ち授業時数 17時間)

	月	火	水	木	金
1	空	理 6の1	空	理 6の2	理 5の1
2	理 5の1	理 6の1	理 5の1	理 6の2	初任研
3	理 5の2	初任研 理5の3	理 5の3	空	初任研
4	理 5の2	初任研	理 5の3	空	空
5	外 5の3	理 6の2	空	外 5の3	理 6の1
6		空	理 5の2	空	空

(2) 大卒新採教員等が学級担任となる場合

大卒新採教員等が学級担任となる学校には、新採教員支援員が1人配置されます。

学級担任



(大卒新採教員)

(新採教員支援員)



- 大卒新採教員等は学級担任として週14~17コマ程度(低学年は11~14コマ程度)授業を受け持ちます。
- 空き時間を活用しながら、教材研究や学級事務を行うことで、授業力と担任力を身につけます。
- 免許を持つ場合、大卒新採教員等の学級の授業を週5~8コマ程度持ちます。
- 免許を持たない場合、大卒新採教員等の学級事務の補助等を行います。(p. 4参照)

【これまでの学級担任の学校生活(例)】

出勤	朝の会	1校時 社会	2校時 国語	中休み	3校時 算数	4校時 音楽	給食	昼休み	清掃	5校時 特活	6校時 体育	帰りの会	放課後	退勤
		1校時 社会	2校時 国語		3校時 算数	4校時 音楽	給食	昼休み	清掃	5校時 特活	6校時 体育	帰りの会	放課後	



【新採教員支援員が配置された場合の学校生活(例)】

出勤	朝の会	1校時 空	2校時 国語	中休み	3校時 算数	4校時 空	給食	昼休み	清掃	5校時 特活	6校時 体育	帰りの会	放課後	退勤
		1校時 空	2校時 国語		3校時 算数	4校時 空	給食	昼休み	清掃	5校時 特活	6校時 体育	帰りの会	放課後	

教材研究を行う時間があるので、よりよい授業作りを行うことができます。



空き時間に点検業務や丸つけ、教材研究などができるので、休み時間に子どもたちと関わることで、児童理解が深まります。

時間と心にゆとりができるので、笑顔で子どもたちと向き合えるようになります。



(週持ち授業時数 17時間)

	月	火	水	木	金
1	国	国	空	国	算
2	空	道	国	算	初任研
3	算	初任研 算	算	空	初任研
4	空	初任研	空	空	国
5	体	空	特活	体	空
6		総合	体	空	総合



(1)教科担任(兼)学級副担任 の場合

(週持ち授業時数 17時間)

	月	火	水	木	金
1	空き	理 6の1	空き	理 6の2	理 5の1
2	理 5の1	理 6の1	理 5の1	理 6の2	初任研
3	理 5の2	初任研 理5の3	理 5の3	空き	初任研
4	理 5の2	初任研	理 5の3	空き	空き
5	外 5の3	理 6の2	空き	外 5の3	理 6の1
6		空き	理 5の2	空き	空き

1日の流れ(水曜日の例)

出勤	朝の会	1校時 空き 教材研究	2校時 理科 5の1	中休み	3校時 理科 5の3	4校時 理科 5の3	給食	昼休み	清掃	5校時 空き 印刷・ 掲示	6校時 理科 5の2	帰りの会	放課後 行事準備・ 学年会 成績 処理	退勤
----	-----	-------------------	------------------	-----	------------------	------------------	----	-----	----	------------------------	------------------	------	---------------------------------	----

- ◆教科担任として、週17コマ程度、複数の学級で特定の教科の授業を行う。
- ◆学級副担任として、先輩教員のそばで学級経営や保護者対応等を学ぶ。



(2)学級担任＋新採教員支援員 の場合

(週持ち授業時数 17時間)

	月	火	水	木	金
	国	国	空	国	算
1			空		
2	空	道	国	算	初任研
3	算	初任研 算	算	空	初任研
4	空	初任研	空	空	国
5	体	空	特活	体	空
6		総合	体	空	総合

1日の流れ(水曜日の例)

出勤	朝の会	1校時 空 教材研究	2校時 国語	中休み	3校時 算数	4校時 空 印刷・ 掲示	給食	昼休み	清掃	5校時 特活	6校時 体育	帰りの会	放課後 行事準備・ 学年会 成績 処理	退勤
----	-----	------------------	-----------	-----	-----------	-----------------------	----	-----	----	-----------	-----------	------	---------------------------------	----

- ◆学級担任として週14～17コマ程度、授業を受け持つ。
- ◆新採教員支援員は大卒新採教員等の学級の授業を週5～8コマ程度受け持つ。その時間は空時間となる。

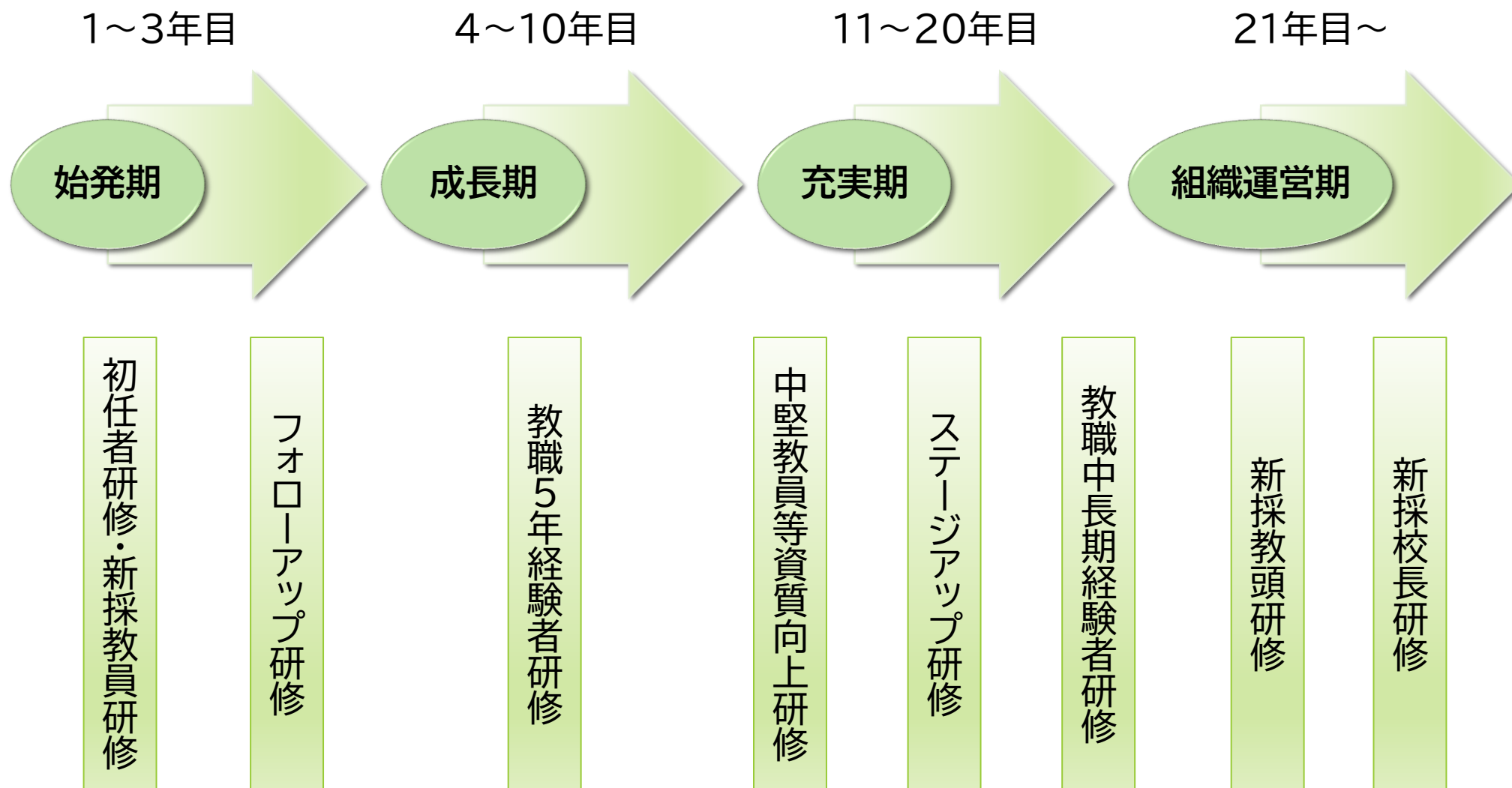
2 研修体制

- キャリアアップ
- 初任者研修



キャリアアップ

～教員ライフとキャリアステージ～

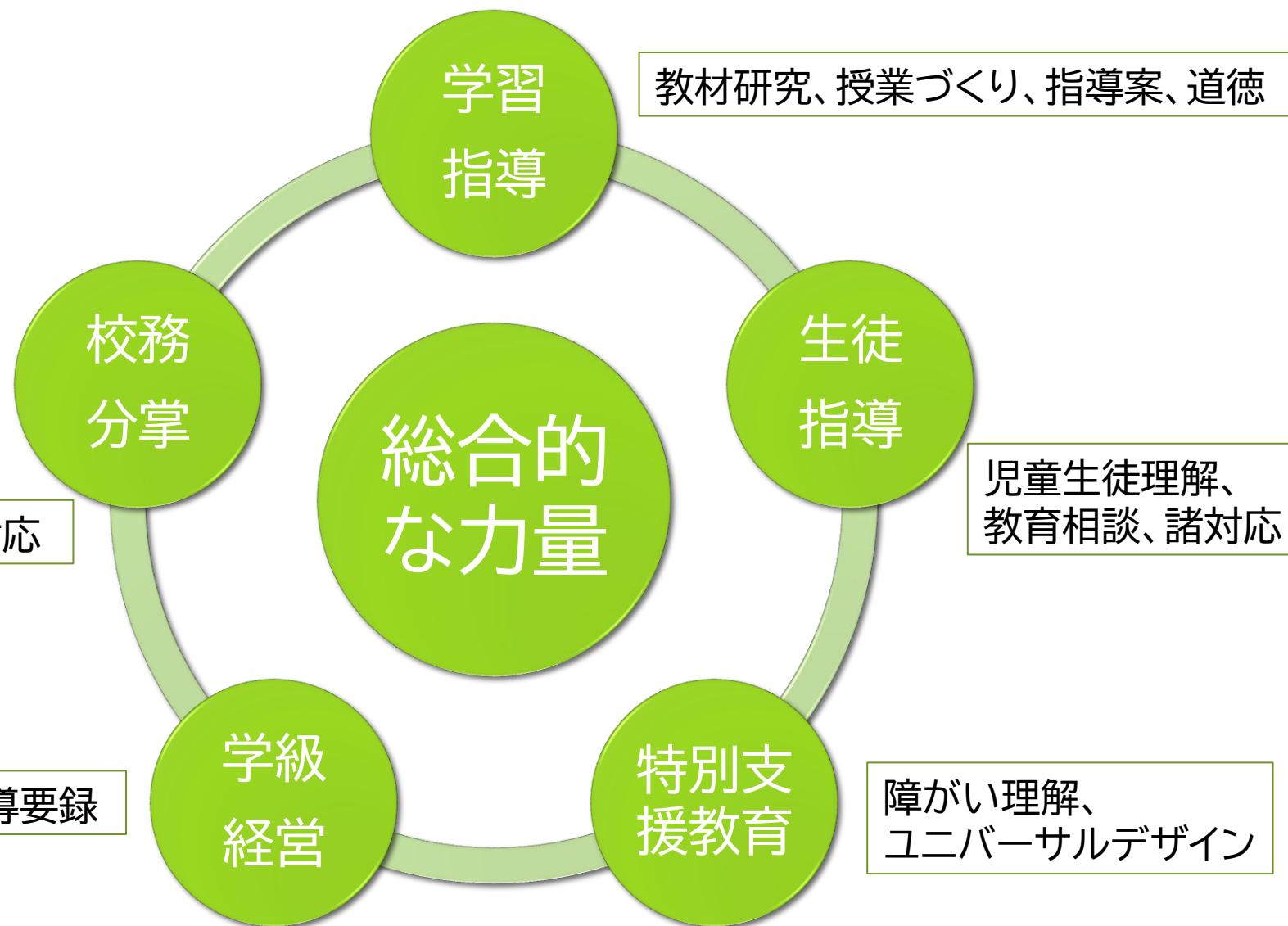


初任者研修

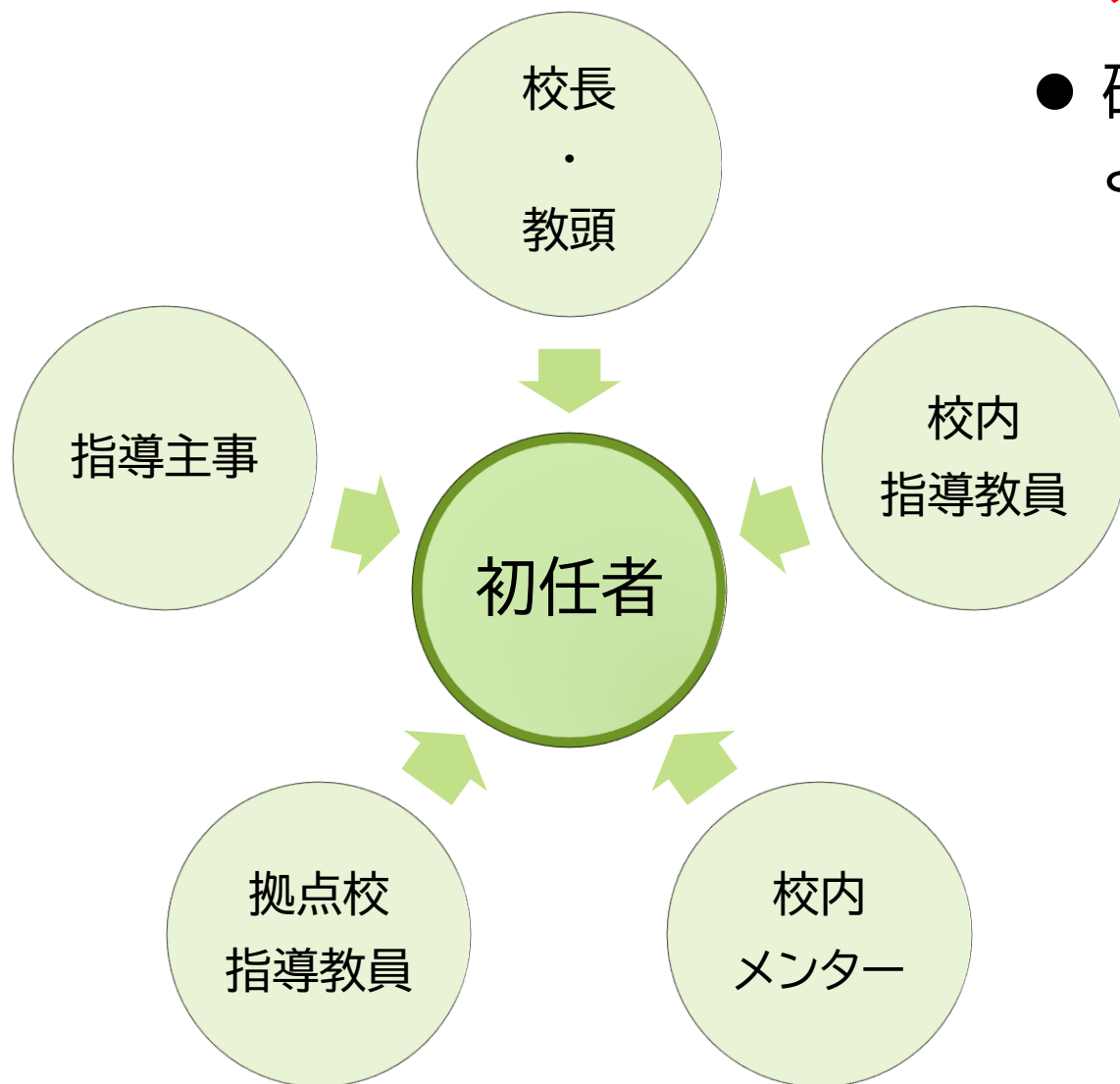
～校内における研修(年間100時間以上)～

OJTによる力量形成 (On the Job Training)

学校現場における実際の実務
をととした研修を実施



若手教員とともに育つ



- 1年目だけではなく、2～3年目の**フォローアップ研修**と合わせた一体的な研修を実施
- 研修時には、授業の進度が遅れることのないよう、**非常勤講師**を派遣



3 職場環境

○働き方改革

○新採教員育成・支援



学校の働き方改革

R6年度 月平均の時間外在校等時間

小学校	中学校	特別支援学校	高等学校
31時間58分	39時間20分	19時間25分	37時間32分
①教材研究・授業準備 ②校務分掌 ③その他	①校務分掌 ②教材研究・授業準備 ③部活動	①教材研究・授業準備 ②校務分掌 ③その他	①校務分掌 ②部活動 ③教材研究・授業準備

学校の働き方改革

山形県公立学校における働き方改革プラン（第Ⅱ期・令和5～7年度）

第Ⅱ期の目標

- ① 半期^{*}における時間外在校等時間の月平均が80時間を超える教員数0人を目指す
- ② 年間における時間外在校等時間の月平均が45時間を超える教員数0人を目指す

実 現

<働き方改革の目的>

- 教職員の心身の健康保持
- ワークライフバランスの実現
- 活き活きと働ける職場環境づくり

教育活動の充実



学校の働き方改革

第Ⅱ期の取り組み方針と具体的な取り組み内容

方針1 更なる 意識改革

方針2 長時間勤務の 要因への対応

県教育委員会

取り組みの柱① PDCAサイクルの構築

- ◎ 学校における働き方改革取り組み状況チェックシートの活用
→ 学校における取り組み状況の把握と更なる改革に向けた具体的な取り組みの実施
- ◎ 管理職に対する人事評価（業績）における目標設定の義務化☆

取り組みの柱② 管理職や教職員の更なる意識改革及び保護者等の理解促進

- 校長会、教頭会、校内研修等での啓発と先進事例の共有☆
- 保護者や地域に対する学校の働き方改革の周知☆

☆ 市町村教委の取り組みにも関わる内容

取り組みの柱③ ICTの有効活用

- ◎ 全県立高等学校へのデジタル採点サービスの導入
→ 効果検証と活用促進
- ICTを活用した児童生徒の情報共有の推進☆
→ 統合型校務支援システムの生徒指導等への活用拡大

取り組みの柱④ 人材の確保及び外部人材の活用

- ◎ 産育休等の代替教員確保（ペーパーティーチャー説明会の開催、大学院生・大学生の非常勤講師任用等）
- 教員業務支援員や部活動指導員等各種外部人材の配置の充実
- スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの配置の充実

取り組みの柱⑤ 業務の外部委託の推進

- 学校・教員が担う業務の明確化・適正化の推進（学校徴収金の公会計化、清掃指導の地域ボランティア活用等）☆

取り組みの柱⑥ 教育課程全体の見直し

- ◎ 大学新卒の新規採用者の授業準備・教材研究時間の確保（新採支援プラン）
- 小学校における教科担任制の導入促進（教科担任マイスター制度等）☆
- 校務分掌の精選、余剰時数削減、日課表の見直し等の推進☆

取り組みの柱⑦ 部活動改革の推進

- 部活動ガイドラインの遵守の徹底☆
- 部活動指導員の活用や任意加入制・複数顧問制による部活動指導の負担軽減☆
- 勤務時間内に終了できる部活動の適切な運営に向けた教育課程の検討☆

- ◎ 新規の内容
- 重点的に取り組む内容
- 継続して取り組む内容

各 学 校

- 45時間超の教職員に対する、管理職による業務改善の具体的な指導
- 保護者・地域に対する働き方改革についての説明・周知の徹底
- 教職員一人一人の時間外在校等時間の可視化

- 学校・教員が担う業務の明確化・適正化の推進
- 教材の蓄積・共有化
- ICTを活用した児童生徒の情報共有
- チームによる児童生徒への個別対応等
- 小学校における教科担任制の導入
- 余剰時数の削減を含めた教育課程全体の見直し
- 部活動ガイドラインの遵守
- 部活動の在り方等の見直し（複数顧問制、任意加入制等）
- 勤務時間内の部活動終了に向けた検討

連携

連携

取り組みの強化・浸透

「取り組み状況チェックシート」で
進捗状況を把握・確認

学校の働き方改革

○人材の確保及び外部人材の活用

- ・ 教員業務支援員(スクール・サポート・スタッフ)
- ・ 校務補助員
- ・ 部活動指導員
- ・ スクールカウンセラー
- ・ SSW(スクールソーシャルワーカー) など

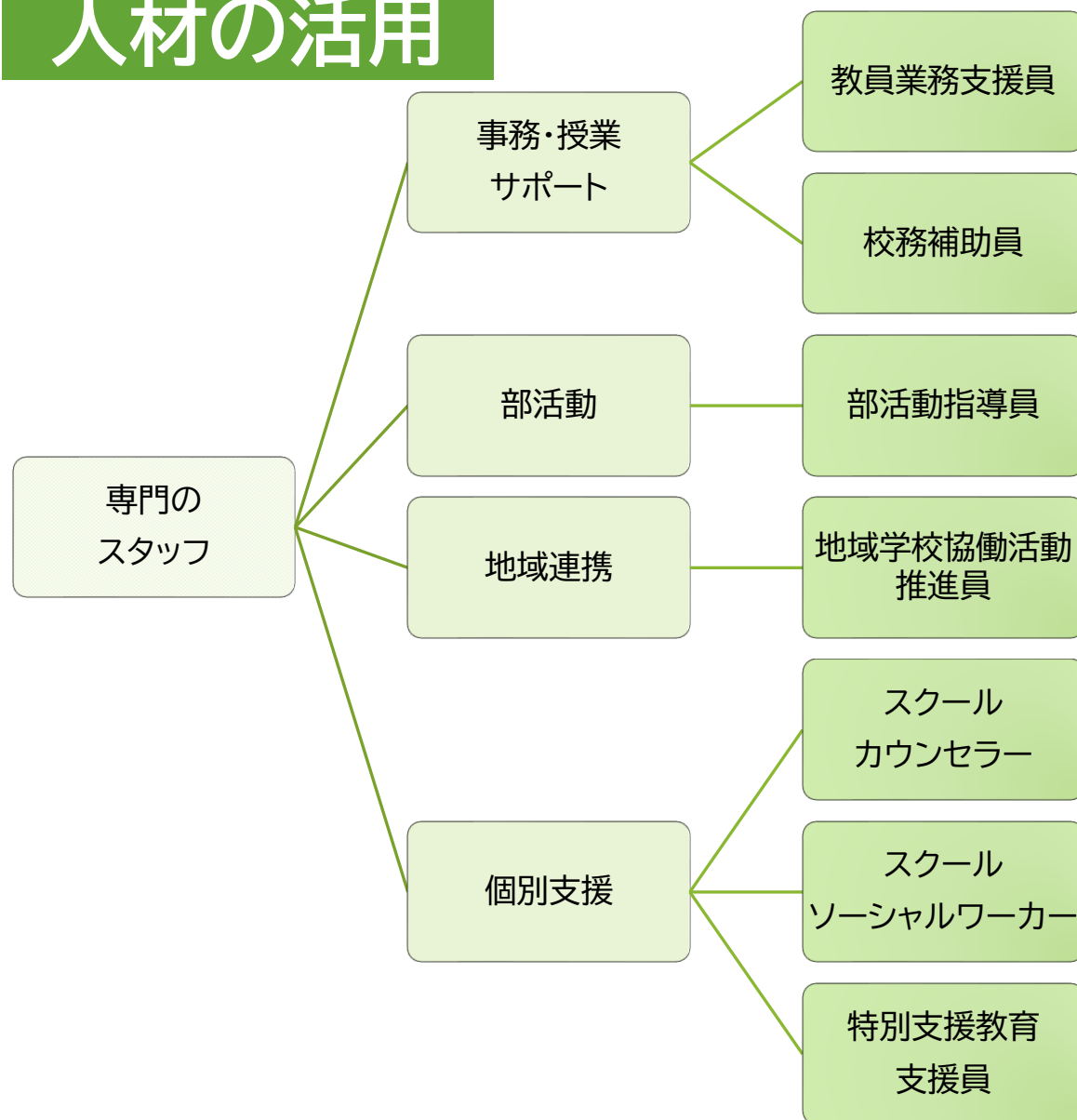
○ICTの有効活用

- ・ 校務支援システム
- ・ デジタル採点
- ・ 保護者等への連絡 など

○教員の事務負担軽減

○勤務時間に対する意識の啓発 など

人材の活用



県内の小中学校、義務教育学校の全校に配置
特別支援学校(本校)の全校に配置

すべての高校

県内すべての中学校
高校12校

地域学校協働活動152本部
地域学校協働活動推進員284名

県内すべての小中高等学校に派遣

県内すべての小中学校に派遣

高校14校

左記以外にも、
市町村独自に

- ・学習支援
- ・特別支援
- ・教育相談
- ・読書活動
- ・日本語指導
- ・外国語指導
等々

を担当する方が
たくさんいます。



部活動ガイドライン

山形県における部活動の在り方に関する方針(抜粋)

(運動部:平成30年12月、文化部:令和元年7月策定)

休養日	平日1日以上、土曜日及び日曜日(週休日)1日以上
活動時間	平日2時間程度、週休日等3時間程度
長期休業中の 休養日	ある程度長期の休養期間を設ける (連続した休養日の設定)

4 待遇

○給与等

○休暇等

○福利厚生



給与・手当

□初任給

	大学卒	大学院卒
山形県の行政職	234,900円	245,600円
山形県の教育職＝教諭 (R7:参考)	273,728円 (R7:259,688円)	290,888円 (R7:276,848円)

○教育職は教職調整額を含む。

○初任給は職歴、経験年数を加算

□手当

- ・期末勤勉手当 … 4.65ヶ月分(令和7年度実績)を、6月と12月に分けて支給
 - ・住居手当 例) 一ヶ月の家賃が¥50,000のアパートを借りた場合¥23,500
 - ・扶養手当 … 扶養する「子」等がいる場合に支給
 - ・通勤手当 … 通勤距離、通勤方法に応じて支給
- 他にも様々あります

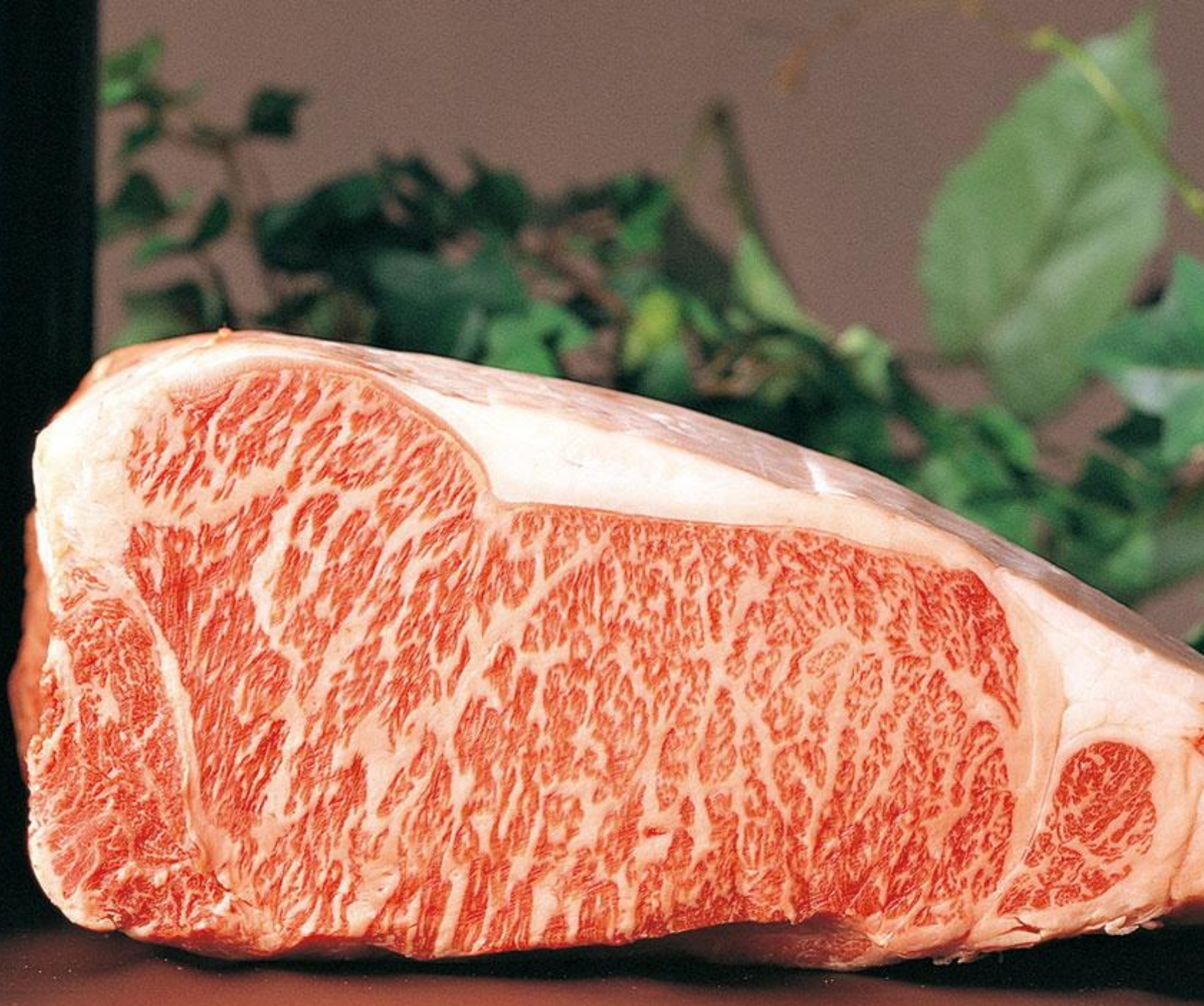
休暇等

- 勤務時間 ・週あたり 38時間45分(1日あたり7時間45分)
 ・休日は、土曜日・日曜日、祝日、年末年始

□休暇・休業(主なもの)

休暇名	日数	備考
年次有給休暇	20日	翌年への繰り越しあり
夏季休暇	6日	7～9月に取得
リフレッシュ休暇	5日	満30、40、50歳
私傷病休暇	90日	生活習慣病休暇への引き継ぎあり
生活習慣病休暇	180日	がん等を含む生活習慣病や精神性疾患
忌引休暇	10日	1～10日の範囲
骨髄移植休暇	必要な期間	
災害休暇	必要な期間	非常災害発生時
婚姻休暇	7日	新婚旅行等で取得する方が多い

5 試験の 変更点



R9採用(令和8年度実施)における変更点等

1. 元職教員特別選考、現職教員特別選考における出願要件の緩和
2. 東京会場(一次試験)における対象校種、教科・科目の拡大
3. 秋選考の本格実施
4. 加点制度の拡大
5. (令和10年度採用をもって)小学校英語の採用枠終了
6. 適性検査のオンライン化

変更点

1.元職教員特別選考、現職教員特別選考における出願要件の緩和

【変更前】

- ・小学校または中学校の勤務経験者(3年以上)は、該当免許があれば、小学校または中学校へ出願できる。



【変更後】

- ・小学校、中学校、特別支援学校の勤務経験者(3年以上)は、該当免許があれば、小学校、中学校、特別支援学校へ出願できる。

変更点

2.東京会場(一次試験)における対象校種、教科・科目の拡大

【R8採用】

対象校種等:小学校、特別支援学校小学部

中学校(国語、理科)、特別支援学校中学部(国語、理科)

高等学校(国語、情報、機械、電気、土木、工業化学、商業)



【R9採用】

対象校種等:小学校、特別支援学校小学部

中学校(国語、理科、技術)、特別支援学校中学部(国語、理科、技術)

高等学校(教科・科目は実施要項で公表)

変更点

3.秋選考の本格実施

【選考を行う校種】

小学校、中学校、特別支援学校のうち、実施要項(10月下旬公表予定)で示す校種、教科・科目

【選 考 区 分】

元職教員特別選考Ⅲ、現職教員特別選考Ⅲ

変更点

4. 加点制度の拡大

【変更前】

大学推薦特別選考において、3年次特別選考A合格者へ加点(10点)を行う。



【変更後】

大学推薦特別選考に出願した者へ加点(10点)を行う。

このうち、3年次特別選考A合格者への加点は15点とする。

変更点

5.小学校英語の採用枠終了

小学校英語の採用については令和10年度採用までとし、それ以降は実施しない。

※ 中学校又は高等学校の英語の普通免許状を有する者(取得見込みの者を含む)への加点については継続予定です。

変更点

6.適性検査のオンライン化

【変更前】

- ・二次試験において、紙面で適性検査を実施する。



【変更後】

- ・一次試験合格者に対し、二次試験前にオンラインで適性検査を実施する。

6 試験の概要 ・ 試験結果等



選考を行った校種等、教科・科目と合格者数

※R7.9.30公表

校種等		教科・科目	合格者数
小学校教諭 (小学校英語を含む)			164名
中学校教諭		国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語	89名
特別支援 学校	小学部教諭		32名
	中学部教諭	中学部教諭の教科は中学校教諭に同じ	
	高等部教諭	理療	
高等学校	教諭	国語、「世界史・日本史」、数学、物理、化学、生物、保健体育、音楽、英語、家庭、情報、機械、電気、土木、工業化学、商業	31名
	助教諭	機械、電気、土木、工業化学	
養護教諭			15名

選考区分

※R7.9.30公表

区分		志願資格	合格者数
一般選考		特別選考の志願資格の方以外はこちら	147
特別選考	講師等	本県の講師等(非常勤も含む)を、通算13ヶ月以上	30
	元職教員Ⅰ・Ⅱ	本県又は他県等で正規採用として3年以上継続して勤務	6
	現職教員Ⅰ・Ⅱ	現在、本県以外において正規採用として、3年以上継続 ※3年目の方も可	22
	大学推薦	校種等、教科・科目で、大学より5名(規定による)	68
	3特B	前年度「大学3年次特別選考A」に合格した者	38
	社会人	教科・科目と関連する実務経験を、5年以上継続 (英語、工業、情報、看護)	1
	前年度二次Bランク	前年度一次合格、二次不合格でBランクの方	18
	障がい者	障がいのある方	1
	スポーツ	国際大会出場、全国3位以上の指導実績 ※高校の保健体育のみ	0

※ 元職・現職Ⅰ(高校以外)、元職・現職Ⅱ(高校)

大学推薦特別選考

※校種・教科は
R7実施のもの

○対象となる校種・教科等と人数

小学校			各5名
小学校英語			
中学校		国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語	
特別支援学校	小学部		
	中学部	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語	
	高等部	理療	
高等学校		物理、「世界史・日本史」、数学、物理、化学、生物、保健体育、音楽、英語、家庭、情報、機械、電気、土木、工業化学、商業	

○推薦要件など(一部抜粋)

- ・ 山形県が第一志望
- ・ 採用延期できない
- ・ 小と特支、中と高などの併願はできない
- ・ 「優」または「A」以上が60%以上が望ましい

○試験項目

- ・ 一次試験の
「教職教養・一般教養」免除

試験項目・内容

※R7実施のもの

試験	試験項目	時間	具体的内容
一次試験	教職教養・一般教養	70分	教育法規、教育心理等の教職教養 と 一般教養 ※マークテスト形式
	小論文	70分	指定されたテーマについて、1000字以内で論述
	教科・科目	90分	出願した教科・科目の内容 (実技がある教科・科目では、70分で実施)
	実技試験	—	一部の校種等、教科・科目のみ
二次試験	個人面接1・2	—	面接官数名と受験者との面接 「場面指導等」を含む
	作文	50分	指定されたテーマについて、800字以内で作文
	実技試験	—	小学校と特別支援学校小学部 英語と音楽の選択

校種等、教科・科目、選考区分によって、試験内容は異なります。

選考区分と試験項目

※R7実施のもの

□一次試験

	一般 選考	特別選考						前年度B 現職・元職 I
		大学推薦 現職・元職Ⅱ	講師等 社会人	3特A (3年次)	3特B (4年次)	スポーツ	障がい者	
教職教養 ・一般教養	○	免除	—	○	免除	免除	○	免除
小論文	—	—	○	—	—	○	—	
教科・科目	○	○	○	—	○	免除	○	
実技試験	○	○	○	—	○	免除	○	
面接	—	—	—	—	—	○	—	

選考区分と試験項目

※R7実施のもの

□二次試験

	小学校・特支小学部		その他の 校種等
	現職Ⅰ・元職Ⅰ	その他	
作文	○	○	○
個人面接1	○	○	○
個人面接2	○	○	○
適性検査	○	○	○
実技試験	免除	○	—

実技試験のある校種等

※R7実施のもの

	校種等、教科・科目		試験内容
一次	中学校 高等学校	音楽	・新曲視唱、新曲視奏、ピアノ演奏、歌唱指揮 ・随意曲選択演奏(歌唱または器楽)
	中学校	美術	・当日指示するもの
	中学校 高等学校	保健体育	・次の領域から2領域選択 陸上競技、器械運動、球技(バレーボール、バスケットボール、サッカーのうち1種目)、武道(柔道、剣道のうち1種目)、ダンス
	中学校	技術	・木材加工、回路の製作
	中学校 高等学校	家庭	・調理、裁縫
		英語	・英語による面接
	養護教諭		・場面对応
二次	小学校 特支小学部		音楽(伴奏譜によるピアノ演奏) か 英語(英語による簡単な自己紹介と日常会話) のいずれかを選択

小学校の実技(英語・二次試験)

※R7実施のもの

○ 英語による自己紹介

○ 日常会話

(例) 英語で答えられますか？

- What sport do you like to play?
- What do you like to talk about with your friends?
- Where do you often go on weekends?

(県HPに掲載の出題例より抜粋)

作文(二次試験)のテーマ

※R7実施のもの

- 児童生徒が前向きに挑戦できる環境をつくるために大切にしたいこと
- 児童生徒の興味・関心・意欲を引き出すために必要な教育とは
- 児童生徒が試行錯誤する学びを支える教育とは
- 児童生徒が社会的に自立して生きていくために
- 他の教職員と協働して勤務する際に大切にしたいこと
- 豊かな体験が児童生徒にもたらすものとは

過去3年分の問題等は、山形県庁1階「行政情報センター」で閲覧・複写できます
電子申請による請求もできます

詳しくは→<https://www.pref.yamagata.jp/documents/31285/kakomon-get.pdf>

一次試験の配点

※R7実施のもの

		教職教養・一般教養	教科・科目	実技試験
小学校、特支小学部		100点	150点	—
中学校 特支中学部	実技あり	100点	100点	50点
	実技なし	100点	150点	—
高等学校 特支高等部	実技あり	100点	200点	100点
	実技なし	100点	300点	—
	スポーツ特選	小論文120点、面接280点		
養護教諭		100点	100点	50点
栄養教諭		100点	150点	—

加点制度を利用した方は、**高校は40点、それ以外は30点**を上限に加点されます

二次試験の配点

※R7実施のもの

	個人面接1	個人面接2	作文	実技試験
小学校、特支小学部	210点	140点	50点	50点
中学校、特支中学部 高等学校 養護教諭 栄養教諭	210点	140点	50点	—

あなたの配点

一次試験()点 ： 二次試験()点

加算制度

※R7実施のもの

	加算要件	小	中	特小	特中	特高	高
①	「数学」、「理科」、「音楽」、「保健体育」及び「英語」の免許状	10					
②	受験教科以外の中学校の免許状		10				
③	受験教科以外に「情報」の免許状			10	10	10	30
④	受験教科以外に「福祉」の免許状			10	10	10	10
⑤	「世・日」の受験者で、「公民」の免許状						5
⑥	受験教科以外で「数学」または「理科」の免許状			10	10	10	
⑦	特支5領域すべての免許状			10	10	10	
⑧	「視覚」、「聴覚」から1+「知的」「肢体」「病弱」から2			5	5	5	
⑨	特支の免許状	10	10				10
⑩	英検2級、TOEFL iBT 65点、TOEIC 600点	10		10			
⑪	「英語」受験者で英検準1級、TOEFL iBT 80点、TOEIC 730点		10		10		10
⑫	司書教諭の資格を持っている又は令和8年3月31日までに取得見込み	5	5	5	5	5	5
⑬	大学推薦特別選考出願者のうち令和7年度「3特A」の合格者	10		10			

加算申請者 = 199名

併願制度

次の組合せ①～③において、
一方の校種を第一志望、他方の校種を第二志望として出願できます。

組み合わせ①
「小学校」と「特別支援学校小学部」

← 小学校と特別支援学校の
両方の免許状が必要

組み合わせ②
「中学校」と「特別支援学校中学部」

← 中学校と特別支援学校の
両方の免許状が必要

組み合わせ③
「中学校」と「高等学校」(R7は、国・家・英のみ)

← 中学校と高等学校の
両方の免許状が必要

・ポイント①

「小」と「特支小」の教科・科目の問題は同じ

「中」と「特支中」の教科・科目の問題は同じ

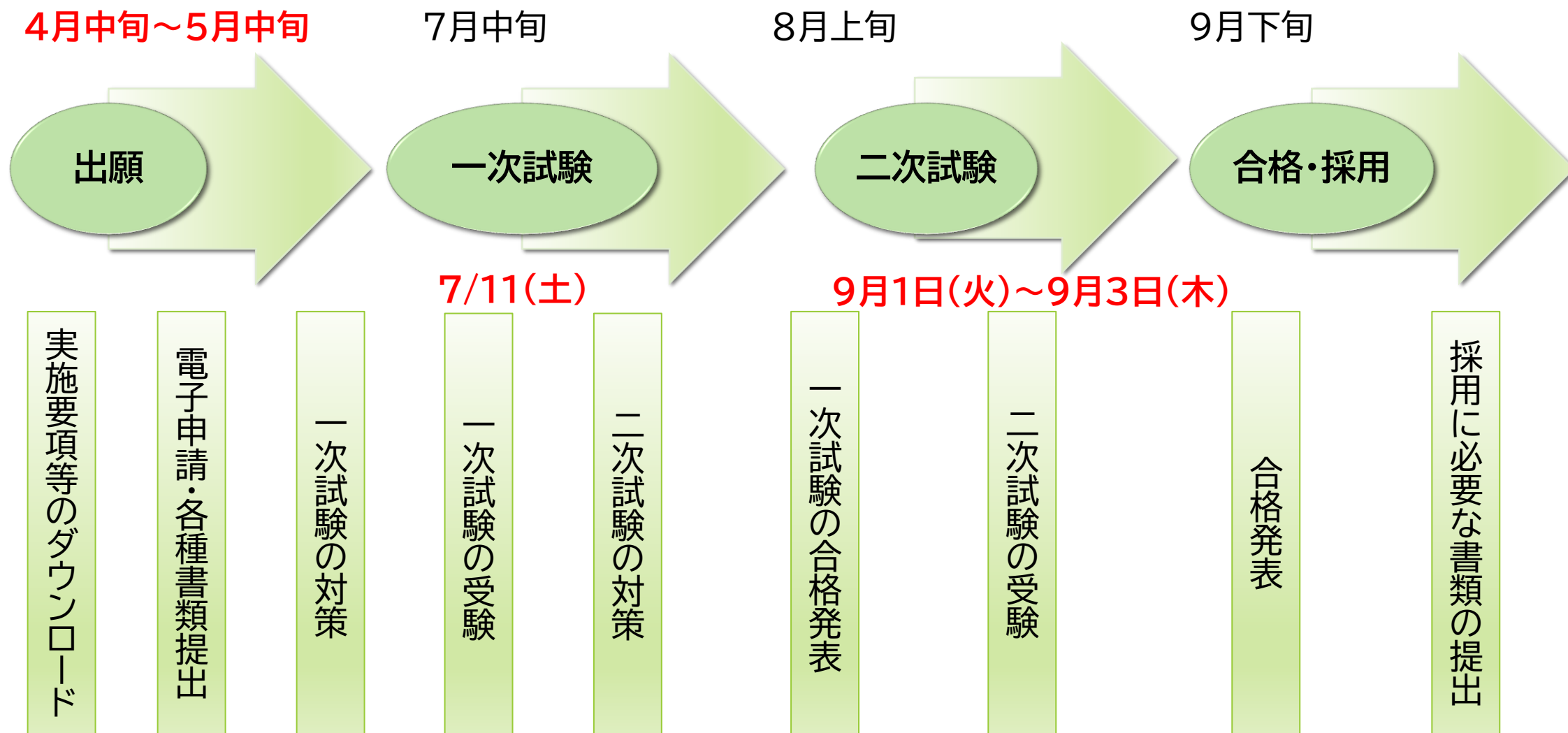
「中」と「高」の教科・科目の問題は同じ ※R7は、国・家・英のみ

・ポイント②

第一志望を特支小中、第二志望を小中で併願する方は、第二志望で必ず加点申請できます

スケジュール

～合格へのロードマップ～



必要な手続き

① 「実施要項」「エントリーシート」をダウンロードする

※実施要項公表(予定)：令和8年4月中旬

② 「電子申請」で必要事項を入力する

※電子申請期間(予定)：令和8年4月中旬～5月中旬

※エントリーシートも電子データを電子申請システムに登録

(該当者のみ)

③ 「加点申請書」等をダウンロードし、作成する

※加点申請書、特別選考関係書類は郵送(簡易書留)で提出

必要な手続き

詳細は**山形県HPをこまめにチェック！**

ホームページの確認が抜け落ちそうで心配……

教員採用X



山形県HP
(教員採用)



県HPの更新
↓
Xで
必ずポストします！

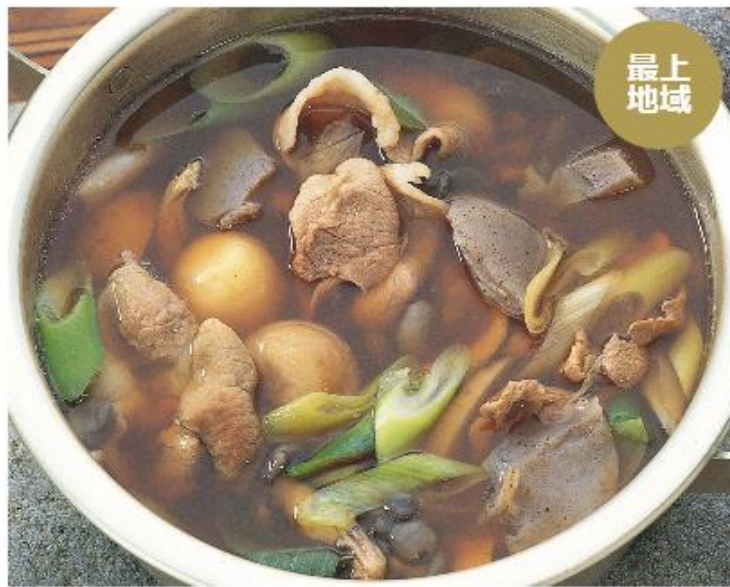
7 よくある 質問



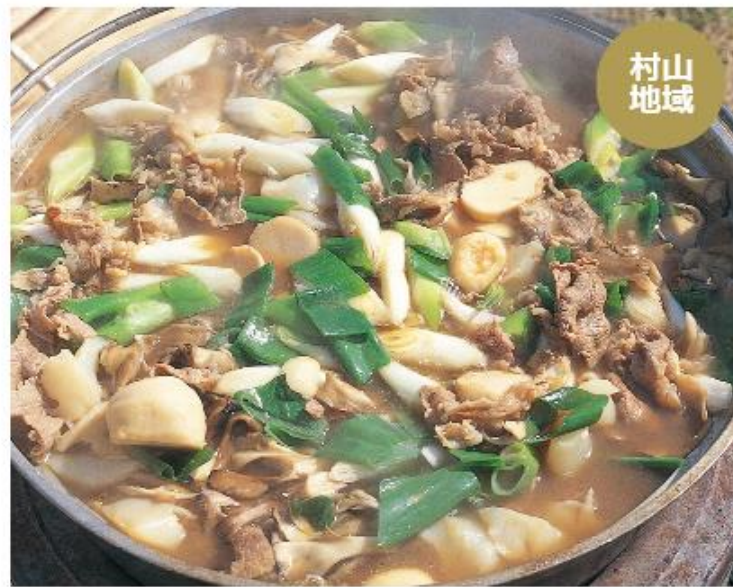
豚肉・味噌味



牛肉・しょう油味（かくし味に味噌）



牛肉・しょう油味



牛肉・しょう油味

採用延期制度

- 合格後、期日までに**採用延期願**を提出すれば、合格の権利をもったままで大学院へ進学、または大学院での修学を継続できる
- 大学院在学中に、**合格した校種等**の**専修免許状を取得**すること
- 以下の条件(どちらか)にあてはまっていればよい

<条件>

1. 教職大学院、専修免許状の取得可能な大学院または修士号取得可能な海外の大学院に進学予定の合格者 ➡ 2年延期
2. 大学院修士課程*1年次に在学中の合格者 ➡ 1年延期

※ 延期期間終了までに専修免許状が取得できない ➡ 採用無効

出願についてのQ&A

Q: 小学校の実技試験は、音楽と英語のどちらを選択した方が有利ですか？

A: どちらを選択しても、有利不利はありません。

自分の力をより発揮できる方を選択してください。

Q: 出願時に選択した実技試験(校種等)を、後から変更することはできますか？

A: できません。出願前によく検討して選択してください。

Q: 出願後に英語資格の結果が届く場合は、加点申請を行うことはできますか？

A: できません。出願時点で英語資格の証明書の写しの提出が必要です。

Q: 大学の通信課程で特別支援学校教諭の免許状を取得しようとしています。大学からは「免許状取得見込証明書は出せない」と言われましたが、加点申請はできますか？

A: (残念ですが) できません。

出願についてのQ&A

Q: 小学校の免許を所有しており、現在、大学の通信課程で特別支援学校教諭の免許状を取得しようとしています。**特支学校小学部を志願**することはできますか？

A: **できます**。ただし、合格後、**免許状が取得できない場合は採用できません**ので御注意下さい。

Q: 前年度「小学校」で受験し、二次で不合格となりました。今年度は**「前年度二次Bランク特選」**で受験しようと考えていますが、「特支小学部」を**併願**することはできますか？

A: (残念ながら)できません。前年度特選は、**前年度と同じ校種を受験する場合に限り有効**です。

Q: 大学3年次特別選考Aで不合格となり、4年次に一般受験する場合、**合否に影響**はありますか？(大学3年次特別選考不合格が不利になることはある？)

A: 大学3年次特別選考の不合格が、4年次の受験で不利になることはありません。

HPは、更新されますのでチェックを！

「山形県」→「資格・試験・採用」→「山形県公立学校教員の採用について」

いつでも、何でも相談してください！！

山形県教育局教職員課(県庁13階)

教員採用試験担当(働き方改革推進)	023-630-3406
小学校・中学校・特別支援学校	023-630-2864
高等学校	023-630-2863

臨時教員(講師等)は常に募集中！！

365日常に募集しており、随時任用(採用)しています
登録票(履歴書)を提出した方と相談して、任用する学校が決まります
フルタイムから数時間、一年間から年間数日と様々な任用があります

「仮登録」始めました！

「登録票」を作成して登録する前に、少しでも不安を解消できればと仮登録の申請ができるようにしました。詳細はHPからどうぞ！ <https://www.pref.yamagata.jp/700026/bunkyo/kyoiku/karitouroku.html>

最後にお知らせです

2～3年の先生からのメッセージ

楽な仕事ではないと思いますが、楽しい仕事だと思います。小学校教員になって良かったと思っています。

子どもたちの成長を近くで感じられるやりがいに溢れた職業だと思います。子供たちのために日々頭を悩ませている時間が、苦しくもあり楽しいです。

教員と一括りにしなくても、色々な世界があると仕事に就いて感じました。通常学級、特別支援学級、特別支援学校など、違った世界や指導方法がありました。どこかに自分が向いている世界があると思います。

日々子どもたちと一緒に成長していると感じます。上手くいかないことも多いですが、支えてくれる同僚や上司のおかげで頑張れています。

教員はブラックだと昨今メディアでも取り上げられ、よく聞く話かと思っています。ただ、実際に働いてみて、こんなにも刺激的な毎日を過ごせる職業は他にないなと感じています。全く同じ日、なんていうのは存在しませんし、昨日よりも今日、今日よりも明日へとわずかでも日々成長していく子どもたちから感動をもらいます悲しいことも楽しいことも子ども達と共有したり、子ども達の持つ力に驚かされたりなど心動かされる職業です。